

手をつなごう

平成18年10月23日
岡山県立東備養護学校
支援部だよりNO. 17

特別支援教育コーディネーター講座を開催して

平成15年3月に公表された「今後の特別支援教育の在り方について（最終報告）」の中で、特別支援教育を支える仕組みとして、教育的支援を行う人や関係機関との連絡調整をするキーパーソンとして「特別支援教育コーディネーター」を置くことが提言され、岡山県でも多くの小中学校でコーディネーターが指名されています。

本校では今年度、小中学校でコーディネーターをされている先生方の支援の一助になればと「備前地域特別支援教育コーディネーター講座」を年間6回の予定で開催しています。初めての事業で、手探りで進めている状況ですが、みなさん毎回熱心に参加してくださっています。先生方の本講座に望むこととしては、「学級に軽度発達障害の児童がいるため、具体的な支援について学びたい」「コーディネーターとしての研修はすべてが初めてのなので、いろいろ勉強したい」「校内の特別支援体制を整え、具体的にどのように支援していったらよいか学びたい」など、様々なニーズがあり、試行錯誤しながら進めています。

どの先生方も熱心で、困難な状況を抱えながらも各校で頑張っておられるんだなあ実感させられます。



学校全体で行う特別支援教育

特別な支援が必要と思われる子どもについて、担任が一人で抱え込んで悩んだり、個人の力量に頼って、コーディネーターが独力で何とかしようというのではなく、「学校全体で支援していきましょう」ということがよく言われています。

校内支援体制を構築していくにあたって、自分の学校の実態把握として、次のようなチェックリストを参考にしてみませんか？

下の項目をチェックして、あなたの学校の様子を振り返ってみましょう。

- ☐ 校長先生は、校内の気になる子どもについて、よく知っていますか。
- ☐ 校内での話し合いでは、先生方が発言しやすい雰囲気ですか。
- ☐ 校内の雰囲気は、特別支援教育を進めることに前向きですか。
- ☐ 学級担任の先生は、よく特別支援教育コーディネーターの先生に相談に来られますか。
- ☐ 子どもたちへの支援に向けて、先生方は協力的ですか。
- ☐ 先生方は子どもたちの支援を話し合うための会議を開くことに協力的ですか。
- ☐ 話し合いで決まった支援の計画は、実行されますか。
- ☐ 外部の機関や関係者に指導や助言、支援を受けることに、校内の雰囲気は積極的ですか。



独立行政法人国立特殊教育総合研究所「特別支援教育コーディネーター実践ガイド」—学校の雰囲気を振り返ってみましょう—より

コーディネーターとして、まずは校内の先生たちの理解や協力を得ることから始めてみましょう。

